

【インドネシア】 パティンバン港及び冷凍冷蔵倉庫に 関する現地調査



辻本 秀行

運輸総合研究所
研究員



高島 稔

運輸総合研究所
アセアン・インド地域事務所
研究員

2026年5月6日～9日

1. はじめに

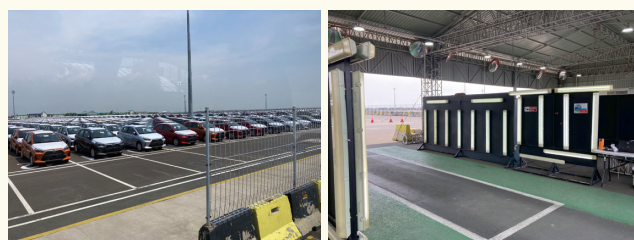
2026年5月6日から9日にかけて、インドネシアにおいて現地調査を実施した。今回の出張では、第1回インドネシア物流WGの開催（本誌P.21～参照）に加え、関係者との会談及び現地調査を行い、港湾、物流、都市開発の各分野における最新の動向を確認した。本稿では、パティンバン港、冷凍冷蔵倉庫の現地調査について概要を報告する。

2. パティンバン港

パティンバン港は、西ジャワ州スパン県に位置し、ジャカルタ中心部から東へ約140kmに位置している。港湾周辺には新たな工業団地整備も進められており、西ジャワ州北部の産業開発拠点として位置付けられている。

パティンバン港では、官民連携（PPP）の枠組みのもと、有償資金協力（円借款）によって、第1期が完工し、現在は拡張工事（Phase 1-2）が進められている。自動車ターミナル（PICT：Patimban International Car Terminal）は豊田通商・上組・トヨタ海運・日本郵船、コンテナターミナル（PGT：Patimban Global Gateway Terminal）は豊田通商及び仏AGL等が運営を担っており、国営港湾企業ペリンドは直接の運営からは外れている。

自動車ターミナルでは、トヨタ、ダイハツ等の日本車に加え、中国製EVも取り扱われていた。



自動車ターミナル

輸出自動車の納車前点検場

コンテナターミナルを運営するPGTは、現在、コンテナターミナルは本格稼働に向けた準備段階にあり、ガントリークレーン3基及びRTG（タイヤ式門型クレーン）9基を発注済みである。これらの荷役機械は2026年末頃に搬入予定であり、その後据付及び試運転を経て本格運用に移行する計画となっている。

一方で、タンジュンプリオク港の混雑を背景として、船社から早期開業を求める声が強かったことから、モバイルハーバークレーン及びリーチスタッカーを前倒しで導入し、暫定的な荷役体制を構築している。モバイルハーバークレーンはガントリークレーンほどの処理能力はないものの、現段階での試験運用には大きな支障はないとのことであった。

2026年3月にはMSC（世界最大級のコンテナ船社）による試験寄港が実施され、大きな問題なく作業を完了したとのことである。現在MSCは本格サービス導入を検討しており、ONEについてはシンガポールとのシャトルサービス開始を予定している。

現時点では移動式クレーンによる荷役や国内貨物船の入港が中心であるが、将来的には横浜港・大阪湾をあわせた規模の取扱能力を目指している。

また、港の背後では約336.6haに及ぶ後背地開発が進められており、物流ゾーンや商業施設等の整備を通じて、タンジュンプリオク港に次ぎ、新たな周辺レバナ地域全体の経済成長拠点形成を図る計画である。一方、ジャカルタ中心部からは約140km離れており、今回の現地調査では渋滞の影響により片道4時間を要したことから、円借款及びPPPを活用したアクセス高速道路の早期整備が、今後の物流円滑化に向けた重要課題であることが確認された。



パティンバン港全体像についての説明

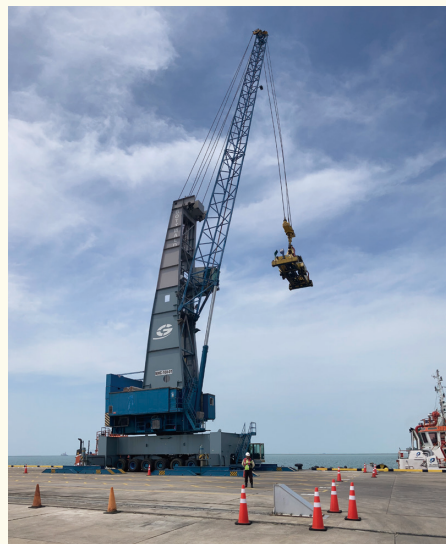
3. 冷凍冷蔵倉庫

PT Kawanishi Warehouse Indonesia の冷凍冷蔵倉庫は、ジャカルタから東へ約30km、西ジャワ州プカシ県にあるMM2100工業団地内に立地している。川西倉庫（本社：兵庫県神戸市）が海外交通・都市開発事業支援機構（JOIN）の共同出資を受けて2017年に開業、運営を行っている（本事業はJOINの物流倉庫分野での第一号案件）。

同施設は、冷凍・冷蔵・定温の3温度帯管理に対応しており、同じくJOINの共同出資も受けて2022年に拡張した第2倉庫では自動倉庫システムを導入し、保管能力は拡張前の約4倍、合計収容パレット数は約23,600に増加している。ちなみに、定温（AC）：約15℃、冷蔵（Chilled）：約5℃、冷凍（Frozen）：-20℃～-25℃の温度帯で管理されており、日本製設備の世界最高水準の効率により、収容能力の増大に対して電気代の増加を最小限に抑えている。なお、工業団地内に専用の火力発電所があり、2017年の開業以来、業務に支障をきたす停電はほぼ皆無である。

また、インドネシアにおけるハラール法の適用を見据え、既にハラール認証を取得済みであり、法規制に準拠した体制で運営されている。あわせて、コールドチェーンの品質向上を目指し、ISO 認証の取得に向けた取組も進められていた。

また、運営・品質管理の強みとして、ローカル競合他社が「在庫差異5%まで免責」とする中、同社は100%の在庫保証を明言しており、これがローカル顧客からの強い信頼と顧客拡大につながっている。今後、物流需要の増加に対応するため、第3倉庫の建設も検討されている。



モバイルハーバークレーン



建設中のアクセス高速道路



冷蔵倉庫内（室温5℃）



冷凍倉庫内の荷物



冷凍庫への自動搬入装置



倉庫外観